

授業づくりリーフレット 2026 フォローアップ第3号 資質・能力の育成を目指す単元構想

【教科教育専門監の授業から学ぶ（外国語編）】

令和8年10月15日
中越教育事務所
学校支援第2課



令和8年1月に中越教育事務所が発行した『授業づくりリーフレット 2026』は、「単元構想」を取り上げ、算数を例にして基本的な考え方と具体的な方法を紹介しています。今号では、鎌田雅俊専門監（見附市立見附中学校）による、「授業力向上研修会（R8.7.10）」の指導案及び公開授業の様子から中学校外国語科における単元構想の工夫について紹介します。

授業力向上研修会（『Lesson 4 Safe Clean Water (NEW CROWN 2) 三省堂』）の学習指導案は、Tea Roomの「教科教育専門監ポータル」の「指導案」からダウンロードできます。



『授業づくりリーフレット 2026』

その1 単元の目標を児童生徒の姿で具体化しよう ～児童生徒の実態を踏まえた単元目標～



単元の目標を最初に設定してから、単元全体を見通した流れを設計することが大切です。単元の目標を設定する際のポイントを、教えてください。

ポイントの1つは、まず単元で身に付けさせたい資質・能力を学習指導要領で確認するとともに、児童生徒の実態等を踏まえた単元の目標を設定することです。

中学校学習指導要領
「書くこと」の目標
(ウ)



児童生徒の実態等

- ・「書くこと」の技能に苦手意識がある
- ・生徒会役員が提案した「学校全体でSDGsの意識を高めよう」の達成に向けて熱心に活動している

また、外国語では、単元を中心となる言語活動において、目的や場面、状況等に即した目標を設定することも大切です。



<単元目標> よりよい学校生活を実現するために、学校生活の中でできるやさしい行動について、事実や自分の考え、その理由を整理しながら、英語でSDGs啓発ポスターを作成し、全校生徒に呼びかけることができるようにする。【書くこと】

鎌田専門監は、目的・場面・状況やモデルテキスト（見本となる英文）を示すとともに、誰に向けたポスターを作成するのかという相手意識を生徒にもたせています。これらのことが、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせることにつながります。

<ゴールの目的・場面・状況>

先日、生徒会から「学校全体でSDGsへの意識をもっと高め、よりよい学校生活につなげたい」という相談がありました。しかし、学校生活の中には、水の使い過ぎや電気の消し忘れ、給食の残食、差別をなくして互いを認める、人間関係の構築、人の話を聞くなど、課題がまだ見られます。そこで、全校生徒に向けて、学校生活の中でできるやさしい行動やその大切さを伝えるSDGs啓発ポスターを英語で作成します。ポスターには、身近な問題やその解決方法、自分たちにできる小さな行動について分かりやすくまとめます。完成したポスターは校内に掲示し、全校生徒に見てもらいます。また、特に提案性の高い作品については、サンジー先生を通してスリランカの学校にも紹介してもらう予定です。

<単元ゴールのモデルテキスト>

Opening	Many students leave food at lunch. I think this is a problem in our school.
Body	We must stop leaving food. Reducing food waste is important. I think eating all our lunch is good. It will help people and the earth.
Closing	Let's reduce food waste!! Thank you for reading and your help.

モデルテキストは、単元の最終成果物（SDGs啓発ポスターの英文）がどのようなレベル・構成・内容であるかを、言語化された形で示しています。教師が目指す姿を生徒と共有することで、1コマの授業で指導する内容が明確になりますね。



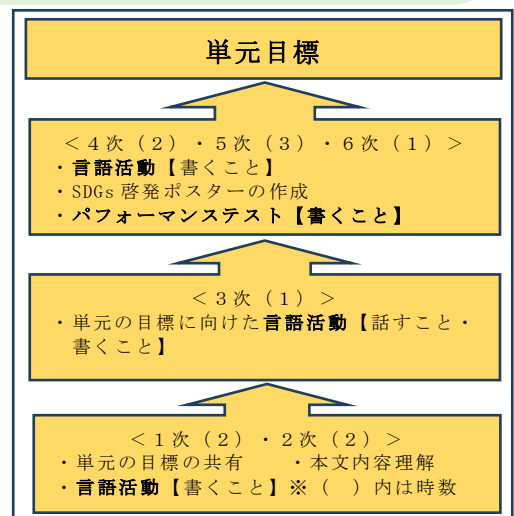
その2 単元の流れを考えよう ～言語活動を軸とした単元構想～

鎌田専門監は、「個別最適な学び」を実現するために、学習方法、学習形態、学習ツールや思考ツール等について、生徒自身が目的や学習状況に応じて選択・決定できる場面を意図的に設定しました。このように、「生徒が学びを調整しながら進める学習」を学習活動の中心に据えることで、自ら課題を解決しようとする力が培われ、主体的に学びに向かう学習者が育成されていきます。

本単元では、生徒は自分に合った学び方を自ら選択することで「個別最適な学び」を実現するとともに、必要に応じて仲間と相談したり表現を比較したりすることで「協働的な学び」の実現を目指しています。このように、「生徒が学びを調整しながら進める学習」を実践することで、両者を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めています。



鎌田専門監は、右図のような単元の流れを構想しました。本単元では、「書くこと」の資質・能力を身に付けさせるために、「生徒が学びを調整しながら進める学習」を中心とした言語活動を単元内で複数回設定しました。本時では、SDGsの目標を基にして、「環境問題」の英文を書く活動を行いました。また単元内で、「平等」や「フードロス」等の別のテーマでも「書くこと」の言語活動を設定し、指導を重ねました。その結果、生徒は単元終末のパフォーマンステストでは、まとまりのある英文を書けるようになりました。



その3 言語活動を充実させよう ～1コマの授業での「読むこと」・「書くこと」の言語活動の実際～



言語活動を体験させることで、生徒の資質・能力を育成していくことが大切なのです。鎌田専門監は1コマの授業で、実際にどのような言語活動を設定したのでしょうか？

本時で、見本となる啓発ポスターを提示し、そこに書かれている内容の概要を捉える言語活動を設定しました。その際、生徒が自ら学習方法や学習形態を選択し、ペアやグループで相談したり、タブレット端末を用いたりしながら、課題に取り組みました。また校内の環境問題に対する自分の思いや考えを啓発ポスターに書く言語活動でも、生徒は仲間との対話だけではなく、教師に質問したり、教科書やノートで英語表現を確認したりしながら、自分が書いた英文を修正していました。



授業力向上研修会で講師を務めた石澤彩専門監(十日町市立中条中学校)は、単元構想のメリットを以下のように示しています。

- ☑単元の目標を具体化すると、生徒の学びの道筋と単元を通して身に付けさせたい力が明確になります。
- ☑単元計画に沿って、「1コマの授業づくり」を構想しやすくなります。
- ☑単元を通して目指す姿が教師と生徒で共有されるので、評価規準が明確になります。



鎌田専門監が作成した啓発ポスターのモデルの一例